

林檎の森

りんごのもり

1
2022
vol.474



新年のご挨拶

特集

10年後に見えるもの～先輩の言葉の意味とは～



令和4年度

新年の挨拶を申し上げます

新年あけましておめでとつござ
います。

組合員及び地域住民の皆様と
もに輝かしい新年を迎えられたこ
とに謹んでご祝詞を申し上げます。

日頃より農協の各事業におきま
しては、格別なるご理解とご協力
を頂き、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみます
と、コロナウイルスが世界中に感
染拡大し、政府が緊急事態宣言
を発出し、人の移動の制限や飲食
店等の営業時間の規制に加え、各
種イベント等の自粛など先の見通
せない状況の中、2月にワクチン
接種を開始、その後感染者が減少
傾向となりましたが、依然として
国内外の経済に大きなダメージを

与えました。

そのような中、1年遅れの8月
に東京オリンピックが無観客での
開催となり、世界各国から参加者
が国内に移動し感染拡大が懸念さ
れました。

一方、農業を取りまく情勢につ
いては、就農人口の減少や生産農
家の高齢化、後継者不足による耕
作放棄地の増加等の諸問題に直面
している中、元気な地域と農業を
めざし自己改革に取り組んでいると
ころです。また、5月の臨時総会
で承認いただきました、ライスセ
ンター新築工事も本年8月に完成
を目指し工事を進めております。

このような中、当JAの主力作
物であるりんごについては、春先

から全国的に温暖化傾向で生育が早めに推移したことから低温の影響を受け、広域的な凍霜害による側果対応や、夏季の降水量不足により、サビ果等の多発や、肥大不足となり、当JAの入庫数量は657,920箱（前年比80%）の入庫実績となりました。

また、稲作については生育期間中全般的に好天に恵まれたことにより、自主流通米5,436俵、（前年比100%）という実績となりました。

りんごの販売については、早生種の「サンつがる」について、前年産やNZ産の流通在庫が多いことから、低調なスタートとなりましたが、総体数量が少ないことから相場は一転し、尻上がり状態となりました。中生種の「早生ふじ系」「トキ」については、品種移行が順調に行われ、台湾・香港を中心とする輸出向けも順調に販売されました。特に「シナノスイート」については、全国的にギフト向けが不足したことから高騰しました。

晩生種主力の「サンふじ」については、ギフト向けが全国的に不

足していることに加えて、春節時期が早いことや、コンテナ船の確保が不安定であることから輸出向けも年内作業に集中し、上位等級品については高騰する反面、下位等級品については、品薄傾向ではあるものの下げ基調で推移し、二極化現象となりました。

このような状況から、越年在庫は前年を大幅に下回る見通しでありますが、小売価格が高すぎることから、全国一斉に売場を縮小されるなかで、企画販売の充実、消費形態に対する宣伝施策により、売り場の確保と高値販売に取組んでまいります。

近年、農業生産基盤が急速に脆弱化していくことが強く懸念される中、組合員の期待に応えるとともに、地域に根ざした組織として、組合員ならびに利用者の皆様から愛されるJA相馬村をめざし、役員が一丸となって取組んでまいりますので、より一層のご理解とご協力をお願いします。

本年も大きな災害の無いことを祈りつつ、組合員及び地域住民の皆様が健やかで笑顔に暮せることを願い新年のあいさついたします。

代表理事組合長 大場 勉

専務理事 三上 隆基

理事金融共済部長 花田 敏幸

理事・総務委員長 福島 憲一

理事・経済委員長 花田 勇人

理事・経済委員 溝江 徹

代表監事 藤田 伸

監事 山内 知人

監事 岩谷 健

他職員一同

10年後に見えるもの

～先輩の言葉の意味とは～



小笠原 聡（おがさわらさとし）

昭和57年12月17日生まれ
青森県田子町出身

2000年

ホテル勤務

今の奥さんと出会う

2016年3月

退社し相馬に移り住む

同時にリンゴ農家に就農

JA相馬村青年部に入部

2018、19年

青森県りんご協会の若手育成

事業に参加

2020年

「りんご病害虫マスター」研

修会に参加

経営体系 経営主 義父

義母

小笠原 聡

小笠原 志麻

以前、小笠原さんは相馬地区へ移住してきた翌年に、当広報誌で一度インタビューを受けていた。そこでは、出会った人脈を活かしているいろいろなことに挑戦していきたいと話していた。

今回は、現在まで小笠原さんがどんな波乱万丈な農業ライフを過ごしてきたか紹介していきたい。

ぼんやりと始めた農業

小笠原さんは、田子町出身で、父は長距離ドライバー、母は専業主婦であった為、農業とは遠い縁の家庭で育った。男2人兄弟の次男として生まれ、高校卒業後は県内でホテルマンとして、客室清掃や厨房、ホールスタッフなどをこなし、7年目からはリーダーとしてホテル業務の管理を行っていた。また、職場で知り合った志麻さんと結婚し、娘を授かり3人で十和田市に居住していた。

ある日、リンゴ農家を営む妻の父が農作業事故で怪我をしたとの連絡があった。治療の末に治ったものの、以前の様な動きが出来なく、少しずつ畑を縮小していきたという相談が妻にきた。

妻の実家は4人姉妹であり、話し合いの末、長女が畑を手伝うことになり、やってみたが合わずに2年程でやめた。妻は小笠原さんに「リンゴ農家やってみない？」

聡がやるなら私も頑張るよ」と相談を持ち掛けた。小笠原さんは「い

いよ。人生1度きりだし、医者と宇宙飛行士は諦めていたけど、それ以外なら何でもやりたいと思っていた」と笑顔で承諾したと言った。

そして、2016年3月に15年間勤めたホテルマンを辞め、家族一緒に弘前市相馬地区へ移り住み、就農した。

青年部から広がる仲間の絆

小笠原さんは、就農を決めたことと同時に新天地で働くことや生活することに対し、仲間や友達が出来てくるだろうか、仕事に順応していく事が出来るだろうかと不安を抱えていた。

そこで、初めて参加した組織は「JA相馬村青年部」。きっかけは、妻の同級生の夫が当時の青年部長であったことから、妻が同級生に連絡。「まずは地域の仲間を増やさないと」と声をかけてもらったのが成田陽平元部長である。入部前、青年部には20代、30代は数人しかいないだろうと勝手に思っていた。

しかし、実際には同年代や年齢の近い盟友が30名以上いたことで驚いた。そして、年齢の近い仲間が一気に増えたことで、「一緒に頑張る仲間ができた」とやる気が湧いてきた。さらに、入部のきっかけとなった成田部長は自分と同じ境遇である「お婿さん」であった。その繋がりもあり、熱心に面倒を見てもらい「まずは人を覚える事」「10年は我慢する事」などと声をかけてもらった。その後、盟友からの紹介もあり、地域の消防団に参加し、冬は地元のスキー場で働くことで地域交流を深める事が出来た。

そこからは、スポーツ大会や地域の草刈り、子供会のイベントなどに呼んでももらえることも増えた。さらに「婿」と呼ばれていたものが、名前で呼んでももらえることが多くなったことで、親近感がわき、一緒にお酒を交わすことが増えた。その中で、リンゴ栽培のことはもとより、一人一人のリンゴ栽培に関するこだわりや過去の失敗談、将来の展望の話など、教科書には

ない事を沢山学ぶことが出来た。

また、盟友の紹介により青森県りんご協会主催の若手育成事業にも参加。2年間で約200時間の座学と実践を学んで技術向上が図られたほか、更に広い地域への仲間を作る良い機会を得た。そこでは同じ悩みを話し合い、同じ境遇の仲間が私以外にもいることが分かり、今後一緒に頑張れる仲間がいることを実感した。

立ちほだかる農業の壁

就農して間もなく、頼れる仲間や地域の人達の関わりも広がっていく事が出来た。その一方で、農作



相馬小学校に上がると同時に相馬地区に移住

業は問題も多く、農家の大変さを痛感する事となる。

まずは、健康面の問題に直面する。それは日光アレルギーの発症。これまで、長年ホテルマンとして室内で働いてきた小笠原さんはアレルギーとは無縁であったが、夜眠れなくなるほどの痒みに襲われ、精神的にとっても応えた。夜眠れなくなり、昼寝をすると寝過ぎすことが増え、自然と朝も起きる事が辛くなっていった。就農して2年目からは、健康面の改善を最優先に考えた。まずは、肌の露出を抑える為に長袖を着るようにしたが、汗疹になり失敗。生活リズムは改善することなく、15年間室内で働いた私の体は簡単に順応してくれなかった。

ある日、スキー場で働く仲間と小笠原さんの体の悩みについて話している時、当時は珍しい空調服を勧められ、試してみることに。その結果、肌を露出することや汗疹に悩まされることも無くなった。小笠原さんは、この健康面を整えるまでの長い道のりから、現状の

視野よりももっと広く、計画と実行を念頭に置いたトライ＆エラーで取組むことの大切さを学んだ。何よりも、自分の知らない情報は畑と家の往復では得ることが出来ないことを痛感した。

仕事面では、毎日の単調な作業に対して、自分の仕事量が対価に見合っているか不安を抱えながら毎日进行した。ホテルマン時代はパソコンを使って仕事のスケジュールを組んでいたことで、1カ月先の予定を把握して仕事をしていた。しかし、農業での仕事のスケジュールは義父から毎日指示があるわけでもなく、雰囲気作業に当たっている状況であり、時給換算と言言葉が恐ろしい程であった。

その後、就農前にもらっていた給料の生活から一変し、「これからやっていけるのか」という不安を抱きながら過ごしていた。

そしていつからか感じていた農業への不平や不満は、家の農業のやり方に問題があると感じ、家の愚痴へ変わっていった。何か気に

くわないことがあると色々指摘される。「なんでうちはシルバークの留め具を6個使っているんだろ」「なんで俺のやっている事が気に入らないんだろ」とつづやることが多々あった。

その後小笠原さんは、交流の深い盟友の園地に作業を手伝いに行く事があり、色々な人の作業内容や方法、雇用人数などを見たことで「自分は今何をしなければならぬのか、どうして他の園地はこうしているのに自分の園地はこうしているのか」という疑問を抱き始めた。

そこで、就農3年目の小笠原さんは、経営主である義父に自分の考えたことを話してみることにした。「少しで良いから自分で畑をやってみたい。妻と2人で頑張るから少し義父さん休んでみたらどうですか？」と。否定されるのではないかと不安な気持ちを抱きながら、勇気を振り絞って話すと、「追い追いな」といつ先の見えな一言で返され、小笠原さんの気持ちは一瞬で絶望的な気持ちへ変

わった。まるで、農村部が外部からの人を受け入れたがらない様に、義父が外部から来た小笠原さんを受け入れられない人の様に見えた。それからというもの、小笠原さんの内心には「どうしようかな。でいいのかな。家族と一緒に地元へ帰ろうかな」という気持ちがぐるぐると回りながら過ぎていった。「ここで挫折したら、一時の迷いで農業をやめたと言われるかもしれないが、もともと農業に足を踏み入れたこと自体が気の迷いだったと思えばまだ救われる」そんな気持ちになるほど私の気持ちは落ち込んでいた。



当時活躍した空調服

再起させてくれた先輩の一言

今後について落ち込んでいた私はある日、同じ境遇の婿であり、成田部長の次の部長である五所地区の佐久間康幸元部長と飲ミニケーションを交わす機会があった。彼の家は小笠原さんの家と近く、畑でもよく見かける事もあり、何度か声をかけてもらっていた。生まれた土地ではないものの、地元の先輩達からの厚い信頼があった彼は、同じ婿として憧れの先輩となっていた。「なんか夢とか目標ってあるのか？」と佐久間部長に聞かれ、明確な夢も目標もなかった小笠原さんはすぐに返答することが出来なかった。そんな小笠原さんを見て「小笠原は、いろんなところに行つて勉強してきているけども、実際にそれを活かす場がないよな。その学んだ事を活かす為にも義父に認めてもらつて、自分で畑やりたいよな。一度断れたくらいで落ち込んでいてもだめだ。少しずつで良いから試行錯誤して、10年は我慢する事だ」という言葉

をかけてもらった。

そこで、小笠原さんが入部当初に声をかけてもらった成田部長にも「10年は我慢」と言つてもらつたことを思い出した。なぜ2人の部長は10年我慢と言つたのだらう。その言葉が気になり、成田部長に聞いてみた。「僕も小笠原と同じく、就農したときには認めてもらえずに、自分のしたいようにはさせてもらえなかった。でも、それは本当に経営を任せる事が出来るかどうかを見極めているんだ。なぜなら一生懸命これまでやってきた畑を任せることになるからな。1年や2年で簡単に任せられる事ではないだろ。自分が任せてもらうまでには7、8年くらいはかった。だからこそ10年は我慢と言つ風に伝えたんだ」と話した。これに小笠原さんはハツとした。自分も15年間ホテルマンとして勤務し、毎日の業務をこなして自分のスキルを磨き、7年目でリーダーになり、ようやく指示する立場で経営にも関わらせてもらえたのではないかと。前職のリーダー気分



JAでたまに会うと作業状況などについて話し合う

が抜けずに、少し分かつているような気持ちになつていたのかもしれない。だからこそ、義父の本当の気持ちを察することが出来なかったと感じた。

そして小笠原さんは、農業に関しては全くの初心者であることを改めて自分に言い聞かせ、農業も同じく任せてもらえるレベルに上げていく事を目標に取組むことと

した。

こうして取り組んでいくうちに、私の作業に対して義父から指摘される事が以前であれば100個あったことが、今では20、30と減つていき、少しずつ信頼を得てきている事を勝手ながら感じていた。

私の目指す将来像

ある日、盟友たちと話をしながら剪定作業を行っていると、1人が「剪定つて失敗はあったりするけども成功つてないよな」とボソリ。「人それぞれのやり方があり、それがその人の成功なのかもな」などと話していた。それはリンゴの剪定に限らずにリンゴ栽培作業全般に言えるのではないか。

そこで、私はある事に気が付いた。それは大好きなカレーと一緒にあることに。カレーは調理器具から調味料、材料など人それぞれである。さらに調味料に関しては「正解がない」という代表例と言つても過言ではないだらう。しかし、正解はないと言いつつも、カレー

小笠原さんにとってのキーマンを紹介



成田 陽平さん（黒滝地区）43歳

愛媛県出身
青年部24代部長
（平成27年～29年度）

栽培面積 2.4ha
経営の構成 義父・義母
妻

仲間の輪を広げてくれた
成田 陽平さん

愛媛県出身で、後に弘前大学へ進学。在学中に、ボーリング場で働いていた時に今の妻と出会い、妻の実家のリンゴ園へ手伝いに行った事で初めてリンゴ園を見たと言つ。その後結婚し、好きなボーリング場で勤めたい気持ちと、リンゴ農家をやってみたい気持ちがあつたが、義父から「就農するならゼロからのスタートだから、若く脳みそが軟らかいうちに仕事を覚えた方がいい」と言われ、その通りだと感じた成田さんは就農を決めた。

その後、成田さんの作業のおかげで、JAからリンゴ高価格販売組合員表彰を受けたことが、義父からの信頼を得るきっかけとなり、経営移譲を受けた。この時就農して約8年が経過したという。成田さんはこれまで「毎年平年並みに下がることなく収量を確保する」を目標にリンゴ栽培と向き合っている。

そんな成田さんは今後、義父と義母の体が心配になってきたことから、「頑張らないで高品質リンゴ生産」を大きな目標としている。

そして妻と二人での経営体を目指している。

小笠原さんにとってのキーマンを紹介



佐久間 康幸さん（五所地区）42歳

神奈川県出身
青年部25代部長
（平成30年～31年度まで）

栽培面積 5ha
経営の構成 義父・義母
妻・通年雇用3人

憧れの先輩
佐久間 康幸さん

神奈川県出身であり、相馬地区に来るまではリンゴはスーパリーなどで見たことはあるが、リンゴの樹は見た事もなかったと言つ。

社会人の時に、社会人野球に所属しており、その時に出会った妻の実家がリンゴ農家だった。そこへ良く手伝いに行き、相馬の人達の暖かいコミュニティに魅かれ、就農することを決めたと言つ。

この地区に来て18年目になると言つ佐久間さんは、婿として

相馬地区に来ることは噂となり、直ぐに青年部に勧誘されて加入。また、婿として初めての青年部員となった。そして、義父と共に7、8年程一緒に農作業をし、栽培に関して一通りある程度出来るようになったことが認められ、任せてもらえるようになったという。

現在でも分からない事は沢山あり、毎日勉強の精神で農作業に励んでいる。青年部を引退した今でも当時の仲間や後輩と情報交換を兼ねた飲みニケーションは欠かせない。

ルーのみで様々な調味料を入れない方が万人受けする味になる。だが隠し調味料を入れることによって自分の個性を前面に出した味にもなる。どちらにするかは本人次第である。

小笠原さんは「個性を前面に出し、付加価値を付けられるようなリングを作って通常栽培のリングと差別化を図れるようにしたい」と思っている。

そして今後は「妻がやりやすい農業」を目指している。現在、丸葉栽培だけの園地をワイ化栽培やハイブリット栽培、高密植栽培にして、作業をしやすいようにしたい。これは成田部長の今後の話を聞いて小笠原さんも感化されたという。また、初心者が園地に来ても簡単に作業できる様、ホテルマン時代のパソコンスキルを活かして、品種や作業方法などの情報を紙やスマホにまとめ、来た人に簡単に伝えられる様にしていきたいという。これまで義父が作ってきた歴史と相馬地区が作ってきた歴史を崩すことなく自分の目指す農業をしたいと力強く語っていた。



園地で乗りこなすバゲの運転はお手の物



志麻さんと二人で選果作業に精を出す

編集者の声

小笠原さんは、全く知らない地域に飛び込み、コミュニティや仲間作りに不安を抱えながらも、相馬地区で農業を始めた。健康面や仕事面で様々な問題と向き合う事になったが、すべて解決へと導いてくれたのは、出会った仲間であった。同世代で悩みをなんでも話せる青年部の盟友をはじめ、同じ境遇であるからこそ熱く話し合えた元青年部長達が、小笠原さんを明るい農業の道へと導いてくれた。

不安だらけでやってきた農業だったが、やる気あふれる小笠原さんだからこそ、必然的に仲間の輪が広がったと言っても過言ではないだろう。

婿でも長男でも、やる気とコミュニティを大切に日々精進することが成長への第一歩であると改めて感じた。

今後、仲間と取組む小笠原さんの目指す将来像が現実になるように応援していきたい。



未来を担う若手農業者へ JA相馬村 部員募集中!!

～40歳までの方なら誰でも歓迎～

ライスロマンクラブの応援作業等の地域貢献活動や栽培技術研修会、他地域との交流会、健康診断による自己の心身を見つめ直す等の活動を行なっています。

心強い仲間がここにいる

問い合わせは 84-3215 JA相馬村本所 小野 迄



2022年の抱負

監査課 山内 結雅

2021年は、知識と経験が不足していると感じ、思うように仕事が進まないことが多々ありました。私生活では断捨離を目標にしていたのですが、全くなかった事を反省しています。

2022年は、知識と経験をたくさん積んで、仕事を早く進めるように頑張っていきたいです。



金融共済課 山内 新菜

2021年は、お客様に大きな声で挨拶をして、笑顔で対応する事を目標に取り組んでいました。振り返ると、自信を持って毎日目標達成出来たと言えないので、2022年こそは自信を持って目標達成できるように取り組んでいきたいです。



金融共済課 工藤 玲奈

金融共済課に2021年4月に異動になり、組合員のお金を預かったりする業務にとっても責任感を感じています。沢山覚える事があり、毎日大変ですが組合員との毎日の関わりが楽しく、元気をもらっています。2022年は、私から元気を与えられるような対応をしていきたいです。



総務課 福沢 雷也

2021年は、湯口スタンドから4月に総務課へ異動になり、覚える事が沢山あって大変でした。2022年は、徐々に業務に慣れてきたことから油断せずに余裕を持って行動していきたいです。



貯金主任 津嶋 育美

2021年に、直売所から相馬支所へ異動になり、仕事ガラッと変わり大変でしたが、周りに助けられ、何より組合員の皆様の暖かい言葉に救われました。これからも、組合員の皆様に、より満足したサービスを行えるように取り組んでいきたいです。



年男・年女(寅年)の職員に聞いた!

直売所リーダー 堀井 裕子

2021年は、久しぶりに直売所へ復帰し、毎日の業務とイベントに追われた毎日を過ごしました。直売所最大のイベント「りんご祭」では想像以上のお客様にお越しいただいたのですが、スタッフの人員が不足し、ご迷惑をおかけしました。2022年は、効率よく業務に当たる為に準備を怠らずに取り組みたいと思います。



購買課 佐々木 加奈子

2021年は、総務課に所属し業務に当たっていましたが、産休に入ったことで、組合員の方と顔を合わせる事が無くなり、寂しく感じていました。これからは湯口支所にて業務に当たるので、早く仕事を覚えて、多くの組合員に頼られるように頑張りたいです。



購買課 嶋路 玲奈

組合員の皆様には、肥料や農薬の事に関して分からないことがあった時によく助けてもらう事があって、もっと事前に勉強しておけばよかったと思う事が沢山ありました。

2022年2月から産休に入りますが、復帰したときにすぐに対応できるようにしたいと思います。



山内 裕美

相馬支所に来て三年経ちましたが、まだまだスムーズに仕事が出来ていないので、窓口に来たお客様に素早い対応が出来るように今後も頑張りたいです。2022年も、笑顔の対応を忘れずに仕事をしていきたいと思っています。



相馬フルーツステーション 副センター長 児玉 広樹

販売課に配属されて10年経ち、仕事に慣れたことで、惰性で過ごしている事がありました。

2022年は、毎日の業務に目標を持ち、少しでも自分に刺激を与えられるように過ごしていきたいと思っています。



直売所「林檎の森」

副リーダー 三上翔平



いつも直売所「林檎の森」をご利用頂きありがとうございます。

連日の寒気により皆様におかれましては大変ご苦勞されていると思います。

さて、いよいよお正月になりもち米や切り餅、しめ縄など年末年始に欠かせない商品を買って行かれる方が多く見られ、店内は子どもからお年寄りの方にお越しいたゞき、笑顔が溢れています。

昨年につき、テントを張つてのサクランボ販売などが新型コロナウィルスにより中止となりましたが、皆様のお力添えにより無事に2022年を迎えることが出来ました。

現在落ち着きを見せている新型コロナウィルスの状況を考えますと、今年の開催に期待が高まっております。

2022年も、会員の皆様の美味しい商品の出荷とお客様のご来店を、スタッフ一同心よりお待ちしております。



様々なジャンルの美味しい惣菜が多くのお客様から大好評!!



山地だからこそ味わえる山の幸は春限定の御馳走!!

一度
直売所のスタッフが選ぶ
食べてもらいたい商品紹介

いきいき女性部通信

事務局 桑田歩



女性部では、12月15日にJA共済連青森主催の「ヘルスアップ講座」に24人参加しました。

この講座では、弘前大学大学院医学研究科の中路重之教授による短命県をどのようにして返上するのかについてや日本整形外科学会理事の伊藤淳二先生によるコロナ禍でのロコモ（運動器の障害）によって介護・介助が必要な状態と骨粗鬆症の対策について話されました。

青森県は日本で一番の短命県とされている事から、改めて食生活と運動量を見直すことを、参加した部員らに促していました。

参加した部員は、講座の合間に行われた「レインボー体操」という体調に合わせ、血液の循環を良くすることを目的とした体操を行い、最近の寒さで固まった体をほぐしていました。

最後には、健康である為には笑う事も重要であることから、落語家の月亭八方さんが公演を行い、

聞いていた部員の皆さんは、声を上げて笑い出すほど楽しんでいました。

参加した田澤真由美部長は「今回参加したことで、部員全体が健康に対する意識が強くなったと思います。今後も、色々な活動が控えているので部員一同健康に気を付けていきたいです」と今後の取り組みに意気込んでいた。



座りながらも出来るレインボー体操

新型コロナだけではなくて生活習慣病の予防も！

弘前市では、生活習慣病の重症化を予防するため、国民健康保険に加入している40～74歳の方を対象とした特定健診、後期高齢者医療制度加入者を対象とした後期高齢者健診を実施しています。

これらの健診は年に1回だけ無料で受けられます。

現在流行している新型コロナウイルスに感染した場合、高血圧、糖尿病などの生活習慣病があると、重症化するリスクが高いと言われています。

自分では気づきにくい生活習慣病を早期に発見し、適切な治療を継続することで、いちはやく身体を守る行動をとみましょう。

～健診の受け方～

① 受診に必要なものを確認する

- ・国保加入者の方…国民健康保険被保険者証、特定健診受診券
受診券を紛失した場合は国保年金課（ℓ35-1116）までご連絡ください。再交付できます。
- ・後期高齢者の方…後期高齢者医療被保険者証、健康診査受診券
受診券を紛失した場合は国保年金課（ℓ40-7046）までご連絡ください。再交付できます。

② 予約する

医療機関に直接お申込みください。

健診を実施している医療機関は「令和3年度健康と福祉ごよみ」や弘前市のホームページで確認できます。

③ 受信する

身体計測・血液検査・尿検査・血圧・問診など 1時間程度で終わります。

④ 結果を受け取る

健診は受けた後が肝心です。必ず健診結果を確認しましょう。

【健診実施期間は令和4年3月15日までです。】

受診の際は、新型コロナウイルスを含む感染症対策のご協力をお願いします。

担当・弘前市 健康こども部国保年金課 ℓ 0172-35-1116（直通）

自動車税（種別割・環境性能割）の 減免制度のお知らせ

身体障害者手帳、戦傷病者手帳、療育（愛護）手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方またはその方と生計を一にする方が、これらの手帳の交付を受けている方の生業、通院、通学などのために自動車を利用している場合で、その障害の程度や自動車の使用状況などが一定の条件に該当するときには、申請により自動車税（種別割・環境性能割）の減免を受けることができます。

詳しくは中南地域県民局県税部までお問い合わせください。

※軽自動車税（種別割）については、市町村の税務担当課にお問い合わせください。

【問合せ先】中南地域県民局県税部 納税管理課
電話 0172-32-4341（直通）

令和3年12月6日

実行委員各位

沢田ろうそくまつり実行委員会
会 長 三上 優一（公印省略）

第14回ろうそくまつり中止のお知らせについて

新型コロナウイルス過収束が見通せない状況を踏まえ今回のまつり（令和4年2月15日実施予定）は昨年に引き続き中止せざるを得ないこととなりました。

なお、沢田町会においては実行委員会のまつり中止決定を受け、コロナ過の状況を鑑み改善センターの開放やトイレの開放を行わないこととし、岩谷堂内外の除雪と参道づくりに限定するとしております。

参道づくりは大変な作業となることから、実行委員皆様のご協力をお願いします。

（作業は令和4年2月15日（火）午後から行う予定です。）

事務局：三上 雄一 090-4632-0309

地域おこし協力隊 活動記 Vol.80



明けましておめでとーいございます！
協力隊の石田です。

今回は昨年末、東京ビックサイトで三日間開催された『エコプロ2021』の話題です。

私たち協力隊は、りんご／さくら和紙研究会メンバーとして出展してきました。

弘前大学主催産学官連携の本取組みは、廃棄される剪定枝を和紙に作り変え、弘前の工芸品やお土産物に活用しようとするものです。今回対面でお客様と話せたことで、ストーリー性のあるエコ製品に注目が集まっていると肌で感じる事ができました。

ブースへご来場のお客様は三日間合わせておよそ六百名！ねぶたが目立つブースには、青森に縁のある方や、紙関連のお仕事の方に多くお立ち寄りいただきました。

この出展に合わせて、JA相馬村加工工場長境谷さん・特産販売課成田さんにもご協力いただき、飛馬りんごジュースのラベルに和紙を使用。見本として飾っていると、「今飲めないの？」と聞かれることもしばしば☆

相馬地区のPRでは、紙漉体験に興味を持たれる方が多く、その土地ならではの体験には、やはり魅力がいっぱいだーと改めて認識することとなりました。

今年は退任の年です！最後までトライする気持ちでがんばります！
(石田・佐野)



編集部をつぶやき～編集後記～

あけましておめでとうございます。いつも広報誌「林檎の森」のご講読ありがとうございます。新年一冊目の今回は昨年12月号に引き続き新規就農の生産者を特集しました。私自身取材の中で、新規就農の人の目線でしか気付けない事も沢山あるんだと感じました。

そして、相馬地区を支える青年部をはじめとする生産者が周りにいる事を再確認し、これからの地域の活性化に力添えさせてもらえればと思います。

来月もご講読の程よろしくをお願いします。良いお年を。 By tomoshi

理事会だより

12月20日（月）

- 1) 11月末残高試算表について
- 2) 組合員の脱退について
- 3) 組合員の名義変更について
- 4) 人事ローテーション未整備対応について
- 5) 令和4年用農薬取扱要領について
- 6) 貸付関係について
- 7) りんご販売関係について
- 8) 固定資産の取得について

- 21 20 18 17 15 13 11 9 8 6 3 1
- 力士が頭のとっぺんに結います
ベッドルームともいいます
南へと吹き抜けていきます
父はロバ、母はウマ
青↓黄↓赤と変わるものをよく見掛けます
穴道湖の名産である二枚貝
水瓶座と牡羊座の間
訴えや申請などが退けられること
—— かまぼこ、—— 団子、—— 笛
鉄道のレールの下に並べます
テレビ——の録画を予約した
魚へんに師と書く出世魚

【タテのカギ】

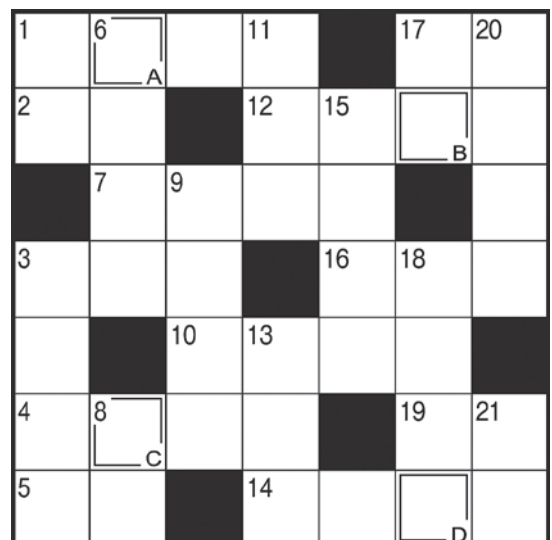
パズル？ 頭の体操

出題：ニトリ

Q 二重マスの文字をA～Dの順に並べてできる言葉は何でしょうか？

- 19 17 16 14 12 10 7 5 4 3 2 1
- 節分の日に丸かじりする地方もあります
歯がある履き物
世界遺産には文化遺産や——遺産があります
ほっそりした指の例えに使われる魚
酸っぱいものを見ると湧きます
特定のヤギの毛を使った高級な毛織物
受験生が勝ち取りたいもの
江戸幕府の旗本、御家人の総称
——頭をたたいてみれば文明開化の音がする
酒のお供です
年齢を尋ねられたので——を読んで答え
ちゃった
愛を英語でいうと

【ヨコのカギ】



答えは広報「林檎の森2月号」にて掲載いたします。

12月号の答え A：フ B：ク C：ワ D：ラ E：イ

農協役員室で——ネズミ盗聴記

元 農協学園長
秋田 義信



農協の役員室。このお客たち——

いや、家からアマサレ人達である。そしてゴダグを並べているのだ。お茶は無料だし…。

油売り「十二月十日の、参議院本

会議での代表質問で、立憲民主党の青木愛議員が、岸田首相が説く

「新資本主義とは、前に竹中平蔵氏が小泉内閣時代に力説した新自由主義と、どう違つか、と質問

したな——」

オンベ「あれは、企業の事業にブレーキをかけるな。企業が儲ければ、その力ネが国民に流れていく

——という考えだ。アメリカからの輸入経済学だ」

ママシ「それに対し、一部の経済学者が『一般国民にも流れて行く? それは屋根から目葉か』、と批評したな——」

油売り「一般民衆が貧乏だと物が売れないのだと、或る学者がテレビで言っていたよ」

——その後、オンベが次のように語った。津軽弁のことを。

軍隊での津軽弁

一つは戸兵衛大将（弘前出身）のこと。日露戦争の、有名な旅順

（二〇三高地）の激戦。二〇三メートルの岩山。上の方にロシア軍。当時、日本軍には機関銃がなく、ロ

シア軍にはそれが有った。どんな撃つてよこす。司令官の乃木大

将の長男も次男も戦死。

戸少将は乃木の信頼が厚く、乃木が「誰も行かなければ戸と俺が行く」と言ったそつだ。岩

山を登って攻めて行つた戸少将、岩陰に伏せているとき自分の腹を押さえたという。

それをみて副官の林銑（せん）十郎中佐が（のちの大将、首相）「閣下、また腹痛でありますか。軍医を呼びます」と言つたら戸少

将が「ソニヤ、イダグネエジャ」と言つたそつだ。

青森歩兵五連隊（現在の青森高校の所）に応召兵として入つた東京の人（名前を忘れたが、のちの法務大臣をつとめた人）——演習

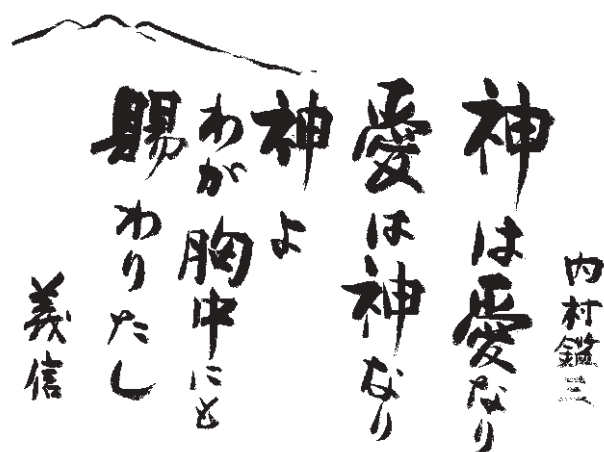
場で大砲の分解搬送をした後、組立のとき、ネジが一つ見付からな

いという。分隊長が「ネズ、フアレ！」と命令したとき、その意味がわからず立っていたら「バカ野郎、ホンツケ！」と叱られ、「全員ネマレ！」と言われたとき、立っ

ていたら「バガモノ！」と——。

× × ×

青森歩兵五連隊（現在の青森高校の所）に応召兵として入つた東京の人（名前を忘れたが、のちの法務大臣をつとめた人）——演習場で大砲の分解搬送をした後、組立のとき、ネジが一つ見付からないという。分隊長が「ネズ、フアレ！」と命令したとき、その意味がわからず立っていたら「バカ野郎、ホンツケ！」と叱られ、「全員ネマレ！」と言われたとき、立っていたら「バガモノ！」と——。



JA相馬村広報

りんごの森 林檎

2022.1 Vol.474

■ 発行者
相馬村農業協同組合
〒036-1593 青森県弘前市大字五所字野沢23-1
TEL.0172-84-3215 FAX.0172-84-3497
■ 編集
総務課広報
ホームページURL <http://www.ja-souma.or.jp/>
e-mail:soumuka@ja-souma.or.jp
■ 発行日
2022年1月1日

JA 相馬村概況

〈令和3年12月末日現在〉

組合員数…………… 864 人
（うち准組合員数 …… 375 人）
出 資 金…………… 617,575 千円
貯 金 額…………… 10,678,091 千円
共済保有高…………… 3,202,994 万円